

【検察庁の職員】

検察庁の職員は、検察官（検事、副検事）と検察事務官等で構成されています。

【検察事務官になるには】

検察事務官になるためには、国家公務員試験一般職試験の大卒程度試験（試験の区分「行政」）又は高卒者試験（試験の区分「事務」）に合格する必要があります。

【検事になるには】

法科大学院を修了するなどして司法試験の受験資格を得た上で、司法試験に合格し、その後、司法修習を終えることなどで検事になることができます。

【副検事になるには】

3年以上所定の公務員の職にあった者が副検事選考試験に合格することなどで副検事になることができます。

自己紹介

質問者：本日は、捜査を担当する中堅の検察事務官であるA事務官からお話を聞きたいと思います。

それでは、まず、A事務官、自己紹介をお願いします。

A事務官：私は、平成17年に検察事務官として採用され、現在、検察庁で勤務して17年目です。

これまで、検察庁のメイン業務である捜査・公判事務や、それ以外の事務にも従事し、令和3年4月から再び立会事務官として勤務しています。

立会事務官としての経歴は、合計7年です。

検察事務官を志望した動機について

質問者：差し支えなければ、検察事務官を志した動機について聞かせてください。

A事務官：私が検察事務官を志望したのは、大学1年生のときに検察庁を題材としたドラマを見て、こんな仕事をしてみたいなと思ったことがきっかけでした。当初、検事になりたいと思っていましたが、検事になるためには日本で最難関の試験である司法試験に合格する必要があると、また、合格には相当な努力と時間を要するなどと考えて、司法試験を受けるかどうか悩んでいたところ、検察庁について調べてみると、検察庁には、検察官をサポートする検察事務官がいて、公務員試験を受けて検察事務官になれば、検察官と共に捜査公判事務に携われることや、選考試験を受けて合格すれば副検事になることができ、検察官の仕事ができることを知りました。

それで、まずは検察事務官として働いてみて、検察官になりたくなったら副検事を目指そうと思い、検察事務官を志望しました。

その後、検察事務官として様々な事務を経験し、職務範囲の広さを体験したことなどから、現在は検察事務官の仕事にやりがいを感じて、日々仕事をしています。

現在の仕事内容について

質問者：現在の仕事の内容について支障のない範囲で教えてください。

A事務官：たちあいじむかん立会事務官として、B検事と共に、主に暴力団関係の事件や外国人関係の事件、薬物事件、風紀事件などの捜査を担当しています。
毎日のように被疑者の取調べや、被害者や目撃者などの参考人の事情聴取に立ち会って供述調書の作成を行ったり、起訴に必要な書類の起案等を行ったりしています。

【検察事務官の職場】

検察事務官の仕事は、大きく3つに分けられ、捜査・公判部門、検務部門、事務局部門があります。

今回、お話を聞いた
たちあいじむかん
「立会事務官」
の業務は、このうち捜査・公判部門に分類されます。

職場の雰囲気について

質問者：今は、どのような環境で勤務していますか。

ここからは、ペアで仕事をしているB検事にも加わってもらいます。

A事務官：B検事と立会事務官である私がペアになって個室で執務しています。
立会事務官は、検察官と2人で過ごす時間がとても長く、仕事の話も当然ですが、それ以外にも、プライベートな話などの雑談もしており、とても良い雰囲気の仕事ができています。

B 検 事：捜査担当の検察官は、立会事務官と2人で執務に当たりますので、「家族よりも一緒に過ごす時間が長い。」などとも言われるほどで、良好な関係を築くことがとても大切です。
普段は、事件処理について率直に意見交換したり、取調べの感想を言い合ったり、おいしい食べ物や面白い出来事について情報交換したりして、コミュニケーションを取っています。
また、私が記録を読みながらつぶやいていると、A事務官がそれを拾ってくれて、素早い対応や根回しをしてくれたり、時には的確なツッコミを入れてくれるので、とても仕事がしやすく、良い雰囲気だと感じています。

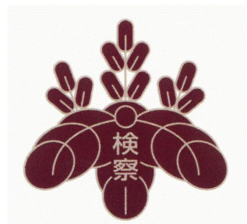
質問者：お二人の職場の雰囲気がとても良好なのがよく分かりました。

検察庁は厳しいイメージや堅いイメージがあるかと思いますが、他の検察事務官との関係はいかがですか。

A事務官：検察庁の職場の雰囲気は、職務内容的に、堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、仕事で分からないことがあれば、周りにいる上司・先輩・同僚が気さくに相談に乗ってくれて、とても風通しがよく、良い環境で仕事ができています。

【検察事務官記章】

検察事務官のバッジです。



上の桐の葉が中央に5枚、左右に3枚ずつ付ごさんのきりもんいており「五三桐紋」と言われています。

法務省の紋章でもあります。

仕事のやりがいについて

【鯨あ郎（こあろう）
（名古屋地方検察庁の
キャラクター）】



名古屋市の東山動物園にはコアラが飼育されており、コアラは名古屋のイメージにもなっています。

「こあろう」は、そのコアラが金のしゃちほこの着ぐるみを着ているキャラクターになります。

「こあろう」という名前には、検察庁と関わりの深い刑法・刑事訴訟法・裁判員法など司法の核となる法律「Core Law（コア・ロウ）」という意味が込められています。ちなみに、「鯨あ郎」が抱えているのは六法全書です。

質問者：立会事務官としての仕事のやりがいは何ですか。

A事務官：立会事務官の仕事は、身柄事件（※）では事件処分に時間的制約を伴うことから時間に追われたり、取調べの関係上で休日出勤をする必要があったりし、また、検察官と共に社会正義の実現と社会の治安維持を担うという大変責任の重い職務内容から、プレッシャーを感じることも珍しくなく、検察庁の中でもかなり忙しい部署ですが、やりがいもたくさんあります。捜査を尽くして真相を解明し、事件の適正な処分ができたときには充実感を得ることができますし、被害者がいる事件で、事件処分後、被害者から感謝の言葉を頂いたときには、仕事を頑張ってきて本当によかったなと思います。

※ 身柄事件…被疑者(いわゆる容疑者)が逮捕等により拘束されている事件のこと。

質問者：B検事に質問します。

A事務官に支えられていると感じたことはありますか。

B検事：日々、支えられていると感じています。検察官だけでは、全く仕事になりません。事務的なことなども含め、様々なことで立会事務官から助けられています。

立会事務官は優秀な方が多く、理解力、読解力、想像力、機動力、交渉能力など様々な能力に長けていると思います。

検察官が多数の事件、難解な事件を処理できるのは、これらの能力を備えた立会事務官の力添えがあってこそです。

質問者：B検事がA事務官と仕事をしてきた中で、具体的に印象に残っていることはありますか。

B検事：以前、証拠である外国語のメールを翻訳する必要があったのですが、あまりにも大量で、警察の捜査でも翻訳できていない部分が残っており、かといって警察の補充捜査を待つ時間的余裕もありませんでした。

そこで、大まかな意味だけでも把握しなければと考え、私とA事務官の2人で力を合わせ、辞書や翻訳アプリを駆使して、何とか解読しきったことがありました（その後、通訳人に確認してもらったら、95点くらいの出来だったことが分かりました！）。

馴染みのない言語の意味を把握するのはなかなか難しい作業で、1人ではただ辛いだけの作業だったと思いますが、A事務官が最初から最後まで一緒になって、主体的に取り組んでくれたのがとても嬉しく、また、ああでもない、こうでもないと言いながら、2人で作業を進めたのは、ちょっと楽しい時間であり、やり遂げたときの達成感は忘れられません。

検察事務官として心がけていることについて

質問者：A事務官が検察事務官として仕事をする上で心がけていることは何ですか。

A事務官：検察庁も組織であることから、やはり「ほうれんそう報連相」は常に意識しています。
検察庁の職務内容は、とすれば人の人生に大きな影響を与えてしまうものであり、自分1人で悩んで、自分の考えだけで行動を起こしてしまうと、もし、誤っていると取り返しのつかない事態を招いてしまう可能性があるため、仕事上で疑問点や問題点があったときには、「ほうれんそう報連相」を欠かさず行い、問題が起きないように心がけています。

ほうれんそう
【報連相】

報告、連絡、相談を「ほうれん草」と掛けた略語。



立会事務官以外の仕事について

質問者：立会事務官以外の仕事も経験しているとのことですが、何か印象に残っていることはありますか。

A事務官：検察庁というと、捜査公判というイメージが強いと思いますが、検察庁には、捜査公判部門を支える「検察行政事務」の仕事もあります。
私は、「検察行政事務」の1つである国有財産係として勤務したことがあります。国有財産係は、主に庁舎の維持管理業務を担当しており、庁舎や設備に修繕箇所があるときには、業者を選定して工事をして修繕し、職員が安全に仕事ができるように職務環境を整えています。

【検察行政事務】

検察庁では、主に、事務局部門が行う事務のことを指します。
庁舎の維持管理を行う国有財産事務は、会計事務に分類されます。また、事務局部門の中には、人事・給与事務のほか、職員の勤務状況の管理や文書の発送等の仕事を行う総務事務などもあります。

ドラマと実際の事務との違いについて

質問者：検察庁を題材にしたドラマを見て検察庁の職員を志望したとのことでしたが、実際に働いてみて違っていたところはありましたか。

A事務官：私が見ていたドラマでは、検察官と立会事務官が頻繁に事件現場に足を運んでいて、あまり庁舎にいないような状況でしたが、実際勤務してみると、検察官は、膨大な量の事件を担当していて、庁舎内で行う必要のある仕事もたくさんあるので、必要がある場合に絞って事件現場に行くというところがちょっと違うと思います。
また、ドラマでは、取調べ中に立会事務官がよく被疑者や参考人に話しかけたりしていますが、実際には、立会事務官が取調べ中に話すことはあまりありません。

質問者：必要があればドラマのように事件現場に行くこともあるのですね。
A事務官、B検事、本日はお忙しいところありがとうございました。

【検務部門】

検察事務官の仕事には、捜査・公判部門や事務局部門のほかに、検務部門と呼ばれる部署があり、事件担当、令状担当、証拠品担当、執行担当、徴収担当、犯歴担当、記録担当に分かれています。